

H23.9.9 土木学会全国大会研究討論会「土木分野における NPO 活動と土木学会の役割」

話題提供および意見交換概略報告

H23.10.5 駒田智久

I 話題提供

I-1 渡邊法美 高知工科大学教授

「新しい公共と NPO 活動、その土木分野における意味」

- ①自己紹介
- ②市民活動・NPO の経験
物部川 21 世紀森と水の会／地質リスク学会／他の市民・NPO 活動の調査／担当講義：NPO 論、地域共生概論、コミュニケーション特論
- ③今回の PD 出席の動機の一例
退職者／中堅／若手
- ④土木系 NPO の現状；研究活動および実践活動とも極めて低調？何故？
- ⑤そもそも NPO って
 - ・「ひとりのこまった」を「みんなのこまった」、「みんなのうれしいに」
 - ・活私開公 & 公私共媒
 - ・「市民のために」ではなく「市民とともに」
 - ・生命のエネルギーの発露
- ⑥事例 1；物部川関連
- ⑦事例 2；地質リスクマネジメント～地質リスク学会
- ⑧NPO の課題；他の主体との協働
- ⑨そもそも土木技術者とは
「稼ぎ」を「仕事」にしている、公の維持・創造者／活私開公の実践者
- ⑩しかし土木系 NPO 活動は低調：「現役時代の生き方」
制度の壁／時間の壁／組織の壁／情報の壁
⇒システム社会（自分は取替可能）での生活に馴染んでしまう
- ⑪官の強み
法律の柔軟な解釈が可能／枠組みが決まると、圧倒的な力を発揮
- ⑫土木技術者の強み
現場に自ら入って、問題を解決／「無限の」苦情への対応／ソーシャルマーケティングの最前線
- ⑬ささやかな経験の一例#1 制度設計
持続可能性を問い、それを実現できる制度を創ること
- ⑭ささやかな経験の一例#2 現役業務の心構え
各自が自分の仕事の意義を考え、有意義な仕事を選んでいくこと
- ⑮ささやかな経験の一例#3 地域に入る作法
地域に居場所を持つために、教えて頂くという気持ちを持つこと
「自分にはこんな技術があります」では不十分

⑩ ささやかな経験の一例#4 時間が無いと思う現役世代へのメッセージ

NPO・地域活動は、

未来（自分、家族、社会）への投資／生命エネルギー発露の場／新しい自己研鑽の場

⑰ まとめ #1

- ・どんな土木技術者人生を生きるべきか
- ・自分にとって本当に大事なことは
- ・どんな仕事をどうすべきか

⑱ まとめ #2

- ・土木技術者は、活私開公の実践者であることを片時も忘れるべきではない
「現役」中から、新しい公を創造し続けるべき！
- ・行政・市民・住民・企業が活動するプラットフォームの調査、構築が必要
- ・生涯現役の、公の維持・創造者へ！ (以上、第一次案による)

I-2 竹内よし子 NPO 法人えひめグローバルネットワーク代表

「地方からの国際化、地域での環境活動」

1. えひめグローバルネットワークの活動

- ・背景～ビジョン・ミッション
- ・活動内容；国際協力活動／環境保全活動／教育活動／ネットワーク
- ・共通コンセプト＝ESD(持続可能な開発のための教育)

2. 具体活動

2.1 地方からの国際化

モザンビーク支援プロジェクト；武器・地雷の残存、貧困・格差、インフラの未整備

2.2 地域での環境活動

- ・大川清掃
- ・四国環境パートナーシップオフィス(四国 EPO)

2.3 その他

- ・四国コグウェイ等

3. 土木系 NPO との連携と中間支援組織への期待

- ・土木系 NPO・同中間支援組織←(連携)→非土木系 NPO・同中間支援組織
- ・土木系 NPO・同中間支援組織←(連携)→土木学会
- ・協働モデル事業の支援

I-3 有岡正樹 成熟シビルエンジニア活性化小委員会 NPOWG 長

「土木分野の NPO 活動の実態と学会支援の NPO 中間支援組織について」

1. 建設系 NPO 法人の実態

2. 特に連携の実態と今後の方向性

3. 建設系 NPO 中間支援組織の必要性とその設立に向けての検討

4. 土木学会の支援の必要性と支援の意味(両者の Win-Win の関係)

II 意見交換

1. フロアからの質問

NPOの実態に関する有岡氏の話題提供に関する質問が2名から有り(竹内氏からもあり)。

2. 非土木分野から見た土木分野からの発表へのコメント(竹内氏)

土木系と言う狭い分野での閉じこもった議論をしない方が良い。

3. 話題提供者相互の質問

各人の既往の経緯に関する質問(「何故?」)

4. 土木分野における新しい公共やNPO活動について

①有岡: PFI、新しい公共など国がどこまでやる気か分からない。東日本大震災で瓦礫処理の提案をした。環境省、国交省、農水省がバラバラである、NPOは法律を変えてもやれという立場で、そういう仕組み作りも新しい公共と考える。

②渡邊: 公共事業=土木、新しい公共=今ある仕事 が制約になる。資源活用方法の提案、持っている資源を結びつける方法が大切で、竹内さんの事例がある。

③竹内: 新しい公共 開発教育は協働が基本、受託・請負即ち役所の下請けでは新しい公共は作れない。協働事業の実施のための協定書、役割り分担、合意、より効果的な組み合わせが必要である。

④野村(フロア): NPOの事務局をしている。発注者の受け皿としてNPO法人を作ることが行われている、これは新しい公共としては不純である。土木学会が然るべき所に政策提言するべきである。

5. 土木学会の役割

①渡邊: 協働しているところのプラットフォーム。旨くいっているところと、いっていないところがある。コミュニケーションの不足。

②竹内: 情報・データの収集

③有岡: 東日本大震災の復興でPFI,PPP協会との新聞発表を行った。— NPO法人の提言では採用されない。中間支援組織が認知されれば、NPOの提案が活かされる。

④ごとう(フロア): NPOはリタイヤ組+現役の構成が大切。現役の人間が係れるような引継ぎの形を。

6. ラストコメント

・有岡話題提供者; 目的寄付に係る議員立法についてのアピール

・駒田座長; 設立準備会~建設系NPO連絡協議会の動き、及び100周年記念事業への提案

(学会HPでの小委員会へのアクセスについては1.において紹介。)